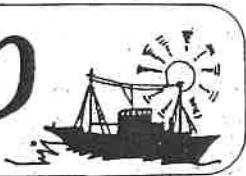


# 福竜丸だより

都立・第五福竜丸展示館ニュース



発行  
財団法人第五福竜丸平和協会  
〒136-0081 東京都江東区  
夢の島3-2  
都立第五福竜丸展示館内  
電話 03-3521-8494

## 貴重な資料を残すために

### 「日本原爆論大系」刊行の狙い

岩 垂 弘

『日本原爆論大系』と題する文献集(七巻)が、この六月、学術出版を専門とする「日本図書センター」(東京都文京区大塚三十八-二)から刊行されることになった。原爆に関する日本人による評論を集めたものだが、共編者の一人(もう一人の編者はフリーライターの中島竜美氏)として、刊行の狙いなどを述べてみたい。

広島・長崎に原爆が投下されてから、今年で五十四年になる。そして、日本人にとって「第三の核被害」となったビキニ被災事件(第五福竜丸事件)から、四十五年になる。

原水爆がもたらした被害に私が関心をもち始めたのは、三十三年前のことである。それ以来、被爆問題や、原水爆をこの世界から廃絶しようという運動の取材を続けてきた。

しかし、近年、日本人の間で原爆問題に対する記憶と関心が次第に希薄になってきたことを痛感するようになった。そのことを端的に感じさせるのは、原水爆禁止運動の動向だ。核問題は依

然未解決であり、ある面ではかえって深刻化しているのだが、運動にかつてのような勢いも熱意もない。

どうしてそうなってしまったのか。さまざまな要因が考えられるが、やはり、被爆からすでに半世紀という歳月が、日本人の被爆体験を風化させてきたからだと思う。

この間、被爆者の高齢化が進み、運動にかかわった指導的な人々も次々と亡くなられた。とりわけ、私が痛感してきたのは、原爆や原水爆禁止運動に関する資料の散失だ。「今、歴史的にして世界的な遺産を収集しておかないと、取り返しがつかないことになる」との思いにかられることしばしばだった。そんな折、日本図書センターに原爆に関する評論集を出したいという計画があり、私の思いとはからずも一致するところとなり、企画が一気に具体化した。

「大系」を貫くコンセプトは、「日本人にとって原爆とは何だったのか」「日本人は原爆をどう論じてきたか」

ということにした。

具体的には、被爆体験記や被爆をテーマとする文学作品、核に関する科学技術的な論文は除き、核問題、核政策、原水爆禁止運動、被爆者問題に関する評論を収録することにした。もちろん、すべての文献に目を通す時間はないので、独断的ながら、これこそ代表的な評論と自分が思うものを収録することにした。

各巻のタイトルは、第一巻「なぜ日本に投下されたか」、第二巻「被爆者の戦後史」、第三巻「原爆被害は国境を越える」、第四巻「核兵器禁止への道I」、第五巻「核兵器禁止への道II」、第六巻「核兵器禁止への道III」、第七巻「歴史認識としての原爆」。

ビキニ被災事件に関する文献と、この事件によって全国的な高揚を見せるに至った原水爆禁止運動に関する資料は第四巻に収録した。収録にあたっては、第五福竜丸平和協会から多大なご協力を得た。

不十分なながらも、原爆に関する評論の集大成は初めて、と自負している。監修を引き受けてくださったのは、坂本義和・東大名誉教授と庄野直美・広島女学院大名誉教授である。

(ジャーナリスト・第五福竜丸平和協会評議員)

鳥の群を二分するように釣竿を引くと、あっけなくカツオを捕ることができました。

滞在四日目で、仕事の打ち合わせと取材が終了。きわめて個人的な趣味で玩具好きな私は、島の玩具店を捜したのですが、見当たりませんでした。となると、南の島の子どもたちは、どのようなオモチャで遊んでいるのかが気になります。

さっそく知り合った島の少年から、究極の「手づくり玩具」をプレゼントされました。

少年は両手の指を交差させて珊瑚礁の海に沈め、一本の中指をオールのように水中で動かしました。すると少年の両手が海亀となって海中を遊弋するのです。つまりマジョロの少年は指の動作だけで見事な亀のおもちゃをつくりだしたのです。

五日目の昼さがり、マジョロの議会場を見学することになりました。平屋建てで風土の品格を生かしたすがすがしい外観です。

建屋内部の広い壁面には額が二点だけ掛けられていました。

額縁の中は島の空撮カラー写真ですが、なぜかマジョロ島では

ないのです。レーダーやアンテナが林立している島の映像。二枚ともハイテク軍事施設のようなクワジレン島のいかつい鳥瞰写真でした。

――常夏の楽園マジョロ島、私に「手づくり玩具」を与えてくれた少年は、口で言葉をしゃべりません。喉仏のところに穴があいています。ノドに人工の笛をつけて、呼吸音のような発声をします。

マジョロ環礁はビキニ環礁、エニウェトク環礁といった兄弟島もあって、マーシャル諸島とよばれています。アメリカの大規模な原水爆実験が六七回もおこなわれた地域です。

おそらく少年のノド笛は、核汚染による甲状腺障害だと思われる。かつての原水爆実験の魔手はいまや、直接被ばくをうけなかったマジョロ島の子どもたちにも……。

マーシャル人にとっての二十世紀文明とは、宝の海を「核の焼け跡」に変えただけなのでしょう。(イラストレーター)

川口市安行小学校六年生の作文から

●第五福竜丸について 庄司友彦

ぼくは、第五福竜丸のことを知って、なぜアメリカは、水爆実験なんてしたのだろうと思いました。アメリカなど、原水爆などの実験をしている国々は、また大きな戦争をやるうとしていいる様な気がします。

水爆実験をしている国々は、戦争をして、原爆を受けたことがないけど、日本は、ただ一つの被害国です。だから、もうあんなことにはなりたくありません。広島に原爆が落とされ、長崎に落とされて、最後に第五福竜丸が被害にあいました。

日本は三回被害にあっています。だからアメリカなど水爆実験をすぐやめてほしいです。なぜなら、実験をやっている、またどこかの国が被害にあってしまうし、戦争なんてやったら、地球がはいされてしまいます。

第五福竜丸の乗組員二十三人の人たちは、放射能をあびて、急性放射能症にかかってしまい東京の病院に入院しました。しかし、その年の九月二十三日に無線長の久保山愛吉さんが亡くなりました。

第五福竜丸の二十三人の人達は、何も悪いことをしていないのに、水爆の被害を受けたのがとても悲

しいです。そして、久保山愛吉さんは、「原爆被害者はわたしを最後にしてほしい」と言い残してお亡くなりになりました。

日本は、ただ一つ原水爆を受けた国です。だから、原水爆による被害がふたたび起こらないように、なってほしいです。

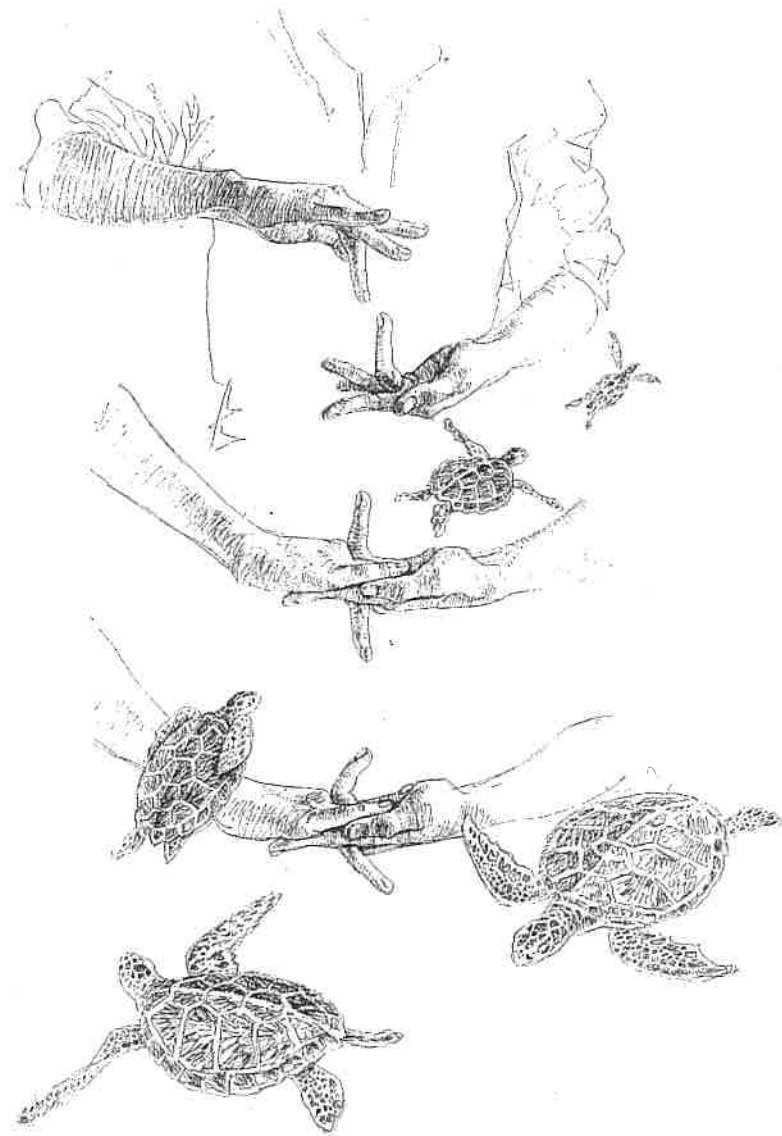
久保山愛吉さんの言葉を大切にぼくたちも世界の平和を願ひ、もっと戦争のこと、原水爆のことについて、知ったり、考えたりしてゆきたいと思ひます。

●おそろしい水素はくたん 宮崎美穂

人はなんで、国を強くしようとしてばくたんをつくるんだろう。自分が強くなっていれば、ほかの国、ほかの人はかんげいしないのか。

ばくだんのじっけんをするならするで、その近くにいる人に、きよかをとればいいのに。船はでていないか、そこでやっても、だいたいようぶなのか。しらべてからやれば、なんの事けんもなかったのに。人の命まで、うばって、強くなればいいの。それじゃあこうかいする。

やっぱり、国は国でちゃんとあるんだから、そんなじっけんをやらなければ、いけないほどためしたいのか？ それなら、それで国と国ではなしあえば、こんな事けんなかったのにな。



### 島の少年の指が作りだしたオモチヤ

高山 文 孝

「ネックレス・アイランド」とはエメラルドに輝く六〇の島々が、

首飾り状に、ぐるりと一回りしているマジョロ環礁の美名です。

赤道間近の島々・トラック、ポンペイ、クワジエレンを飛び石にして、コンチネンタル航空の貨物旅客機はマジョロ島に着陸しました。

頼されています。ヤシ林をのせた小さな陸地、海抜は最高でも三メートルくらい。絶海の孤島を思わせるマジョロ島ですが一万人の人口を有します。島での第一日目の早朝散歩ではヤシの実を賞味することができました。道すがら出会った島民に、太陽光をうけてキラキラ輝きながらたわわにみゆるヤシの実をねだると、「ドル札ではなくてタバコ一箱ならよろしい」との良好なご返事。島のお父さんはヤシの高木に取り付くと一気に登りきり、ヤシの実をドサドサと落とさせます。

ついで地上に降り立ったお父さんは二枚のヤシの葉を絡み合わせ手品師さながら、瞬時に美麗な運搬カゴを編み上げました。八個のヤシの実をそのカゴに入れて私に手渡すのです。

午前中にカツオ工場の下見を済ませ、昼食後、小型クルーザーで環礁から外海へ出航しカツオ釣りに挑戦しました。

トビウオの群が船首をけん引するように滑空。やがてイルカが伴走しながら舷側にじゃれつきます。クルーザーはカツオ鳥が黒く飛び集う海面をめざして疾走します。

### 原子力空母の横須賀母港化

服 部 学

昨年一月「原子力空母の母港を考える市民の会」が発足した。現在横須賀市長に対し、①港湾法に基づく市長の権限によって、一、二号バースの延長工事を認めないでください。②原子力空母の母港計画・寄港のストップを表明し、そのために必要な行動をとってください。という署名運動を進めている。さいわい署名数はどんどん増えている。

いま横須賀基地は一九七三年以来三隻目の通常型空母キティホークの母港である。しかし通常型空母は退役し、二〇〇七年になるとアメリカの空母は全部原子力空母になる。このままでは横須賀は原子力空母の母港になってしまう。なんだ一〇年も先のことかとは言っていない。

既にアメリカでは昨年八月、GAO(会計検査院)が議会に対して「海軍航空母艦―通常型と原子力空母の費用対効果」と題する報告書を発表した。この中ではつき

りと横須賀の名前を上げて原子力空母の母港化の問題を論じている。もともとGAOの試算では、五〇年間のライフ・サイクル・コストは通常型空母の方が約三割も安くなるとしている。つまりGAOは通常型の方に肩を持っている。

しかし今年の国防報告を見ると、強大な核戦力に頼ろうとするアメリカの核政策は少しも変わっていない。

久保山愛吉さんが聞いたら何と言われるだろうか。

いま日本の国会で審議中の周辺事態法(新ガイドライン)と重ね合わせて見ると空恐ろしくなる。横須賀の原子力空母母港化もこれと無関係ではない。先のGAOの報告書でも、湾岸までどっちが先に駆けつつかを論じている。ところが国防総省はこれに猛烈に反対し、九月には国防調達委員会(DAB)は次の空母を原子力推進型とする海軍の要求を承認した。安全性も問題である。

原子力空母は原子力発電所とは同じ規模の原子炉を推進用に使っている。原子力空母の母港化というのは、横須賀市役所から歩いても行けるところに原子力発電所が置かれることである。しかも原子力潜水艦の寄港以来、日本政府は原子力規制法に基づいて原子炉の安全審査を行う事が一切できない。

安全審査にも問題はあるが、原子力艦船の場合、原子炉の設置者はアメリカ海軍である。設置者が安全だと言っても日本政府は安全審査をしなければならぬ。それができない。確率は小さいにしても原子力発電所級の原子炉が万一事故を起こしたら影響する範囲は大きい。

基地の中に日本の法律を適用するのは困難であるにしても、一歩外に出た東京湾は日本の領海である。私は横須賀の海岸に住んでいるが、目の前を安全審査もしない大型原子炉が通っていると考えると恐ろしくなる。東京湾は世界でも有数の海上交通の激しいところでもある。

恐らく原子力空母が泊まることになる一、二号バースはアメリカの

要請で延長工事が予定されていたところが防衛施設庁の調査で付近に著しい汚染が見つかった。膨大な思いやり予算でこれを封じ込めてバースを延長しようとしている。

GAOの報告書では、原子力空母の母港化にはいろいろと付属施設の工事が必要で、日本政府がお金を出して工事を終えるには七乃至一五年が必要だとしている。そして、国務省によれば日本は原子力には神経質だから、日本政府とアメリカ政府の慎重な交渉が必要だと考えているとも書いてある。このことは私たちが神経質になれば原子力空母の母港化が食い止められるということでもある。

皆さん、大いに神経質になっていただきたい。

なお、署名用紙、パンフレット等がご入用な方は下記にご連絡ください。

〒三六〇〇八 横須賀市大滝町

一―二六 清水ビル三階

呉東・小林法律事務所 気付原子力空母の横須賀母港を考える市民の会

(立教大学名誉教授・

第五福竜丸協会理事)